

事業コード	H24-農-新-02		区 分	国庫補助 県単独
事業名	農業農村整備調査計画費		部局課室名	農林水産部 農山村振興課
事業種別	農地集積加速化基盤整備事業		班 名	農村整備計画班 (tel) 018-860-1855
路線名等	能代市		担当課長名	保坂龍弥
箇所名	下田平地区		担当者名	加藤晃
総合計画との関連	政策コード	02	政 策 名	融合と成長の新農林水産ビジネス創出
	施策コード	02	施 策 名	新農林水産ビジネスの展開を支える基盤づくり
	指標コード	02	施策目標(指標)名	水田フル活用の推進と生産基盤の整備

1. 事業の概要

事業期間	H25 ~ H30 (6年)		総事業費	18.8億円	国庫補助率	55%	
事業規模	区画整理 A=101.5ha						
事業の立案に至る背景	<p>農業者の高齢化による後継者不足、さらには農業労働力の流出など、地域農業を取り巻く環境は厳しく、新たな農業の展開を切り開く必要がある。</p> <p>地区の大半は30a区画で整備されているものの、用排兼用の土水路や狭小な農道と、農作業に多大な労力を要している。</p> <p>消費者ニーズに即した売れる米作りを目指し、集落が一体となった法人の育成や米の県外企業との契約栽培などを進めるための農業基盤の確保が急務である。</p>						
事業目的	<p>地形にあった形状による区画拡大と、用排水路の完全分離・装工、農地の汎用化のための暗渠排水工を一体的に整備し、複合経営が可能な農業基盤の整備をする。</p> <p>新たに設立する農業生産法人に地区内の農地を集積し、農地の団地化・連坦化による効率的な農業経営を行うとともに、新たな作物の導入により収益性を追求した農業への転換を図る。</p>						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度以降
	事業費		1,880,000	110,000	800,000	750,000	220,000
	経費内訳	工事費	1,550,000		720,000	650,000	180,000
		用補費	80,000		60,000	20,000	
		その他	250,000	110,000	20,000	80,000	40,000
	財源内訳	国庫補助	1,034,000	60,500	440,000	412,500	121,000
		県 債	376,000	22,000	160,000	150,000	44,000
その他		329,000	19,250	140,000	131,250	38,500	
一般財源		141,000	8,250	60,000	56,250	16,500	
事業内容		区画整理 A=101.5ha 暗渠排水 A=101.5ha	実施設計 N=1式	区画整理 A=51.0ha	区画整理 A=50.5ha	暗渠排水 A=101.5ha	
調査経緯	<p>平成23年度基礎調査(調査費1,000千円、県50%・地元50%)</p> <p>平成24年度実施設計,調査計画(調査費8,000千円、国50%・県20%・地元30%)</p>						
上位計画での位置付け	ふるさと秋田元気創造プラン「新農林水産ビジネスの展開を支える基盤づくり」						
関連プロジェクト等	一般国道7号 ニツ井今泉道路						
事業を取り巻く情勢の変化	<p>農山村地域では過疎化や高齢化が進み、地域の集落機能の低下や担い手の不足などにより、農業生産力が低下するとともに農村の活力が失われつつある。このため農地の生産力を最大限発揮するほ場整備事業を導入し、集落型農業法人等への面的な集積を図るとともに、複合経営による産地づくりを促進し、併せて耕作放棄地防止を図る必要がある。</p>						
事業効率把握の手法	指標名	評価箇所における担い手が経営する面積割合					
	指標式	地区内の担い手の経営面積 / ほ場整備地区面積					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	70 %		データ等の出典	基盤整備関連経営体育成等促進計画書		
	達成値 b	89 %					
達成率 b / a	127 %		把握の時期	平成24年 7月			

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	農業県である本県農業の将来を支える農業者の育成は県の重点課題であり、県での積極的かつ主体的な関与が必要。本事業の主目的は担い手の育成・確保である。 地区の大半を30a区画に整備するなど、生産性を考慮した農業への関心は高いが、地下水が高く、転作が困難であるなど、営農に苦慮している状況である。この課題を総合的に解決でき得る手段は、ほ場整備事業しかない。	8 点
緊 急 性	排水不良などから、思う通りの営農が困難であり、また農業者の高齢化や後継者不足のため、地域農業の存続が危ぶまれている地区である。 このため、地域の担い手を育成するとともに、効率的な営農と複合経営を可能とするほ場整備の導入は急務である。	16 点
有 効 性	事業を契機に、集落の農業を支える農業生産法人「下田平ファーム(構成員4人・H26.3設立予定)を設立し、地区の89%を農地集積する計画である。 ほ場整備により、乾田化が図られたほ場では、大豆や白神ネギなどの戦略作物等を導入した複合経営を計画している。	28 点
効 率 性	点在する小区画での農作業から、大区画に変わること、作業の効率化・省力化が図られると共に、ほ場条件が改善されることで生産性が格段に向上する。投資効率は1.51となっている。	13 点
熟 度	地域の農家全体で、これからの地域農業とほ場整備事業について、平成22年度に事業推進委員会の設立から、23回の話し合いを重ねており、既存の生産団体を核とした農業法人への集積計画や、これまで湿田により導入が困難だった転作作物を選定するなど、地域の営農構想への熟度は高い。	21 点
判 定	ランク () 排水改良により、白神ネギや白神ウドといった地域ブランドの導入・拡大し団地化を図ることや、すでに首都圏の企業と連携して米の販売を行っており、法人化に伴い出荷量の拡大を計画している等、地域のほ場整備事業に対する期待は高い。	86 点
総 合 評 価	選定 改善して選定 保留 集落農地の9割を法人が集積し、白神ネギやウドといった転作作物のほか、こだわりの米を県外企業へ発信することとしている。ほ場整備事業により生産基盤の確立を図ることは、農業経営の安定を確保することに繋がり、事業実施は妥当と考える。	

3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	選定 改善して選定 保留
	農業生産法人が地区の89%を集積し、水稻のほか、乾田化されたほ場で大豆、白神ネギ等の栽培に取り組む計画となっている。 生産性向上により担い手の経営基盤を強化し、複合的な農業経営を実現するという観点から必要性及び緊急性は高く、事業実施という1次評価は妥当と判断される。

4. 財政課長意見

意見内容	選定 改善して選定 保留
	将来へ向け地域農業の担い手を創出し、安定した複合経営の実現を目指しており、有効性が高く、事業実施の必要性が高い。 また、地区の水源となる揚水機施設の一部を統合するなど、効率性の面からも妥当である。

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総合評価	選定 改善して選定 保留
	事業の実施は妥当である。

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

事業箇所を国に新規要望する。

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 新規箇所評価
適用基準名 ほ場整備事業

事業コード (H24-農-新-02)
箇所名 (下田平地区)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	事業の必要性					
	受益面積 (地域周辺への波及度)	100ha以上 (条件不利地域の場合、50ha以上) 50ha以上100ha未満 (条件不利地域の場合、20ha以上50ha未満) 50ha未満	5 3 1	5		
	労働生産性の現状	未整備地域である 整備済だが水路等の損傷が著しい 整備済で、水路等の損傷が見あたらない	5 3 1	3		
	計		10	8		
	緊急性	事業未実施の影響				
緊急性	営農への支障状況	用水不足や排水不良等が全域で見られ支障をきたしている 用水不足や排水不良等が一部区域 営農への支障は特にない	5 3 0	3		
	応急対策の実施状況	施設の老朽化等により応急対策は日常化している これまでに応急対策を実施したことがある 応急対策を実施したことはない	5 3 0	5		
	受益者の高齢化状況	60歳以上の耕作者が40%以上 60歳以上の耕作者が30%以上40%未満 60歳以上の耕作者が30%未満	5 3 1	5		
	他事業との関連	他事業との関連	関連する他事業との調整で緊急性が高い 関連する他事業との調整が事業期間中に必要 関連する他事業との調整を必要としない	5 3 0	3	
	計		20	16		
有効性	上位計画への貢献度					
	ふるさと秋田元気創造プランでの位置付け	戦略を支える取組として貢献度が高い 戦略を支える取組に間接的に貢献する 戦略を支える取組への貢献度は低い事業である	5 3 1	5		
	市町村計画での位置付け	農業振興の中核を担う事業として位置づけられている 農業振興を担う施策に間接的に位置づけられている 特に位置づけられていない	5 3 0	5		
	期待される具体的効果					
	担い手への農地集積度	農業生産法人等担い手への農地集積率が70%以上 農業生産法人等担い手への農地集積率が50%以上70%未満 農業生産法人等担い手への農地集積率が50%未満	5 3 1	5		
	農業所得	農業生産法人オペレーターの農業所得が他産業並の450万円以上 農業生産法人オペレーターの農業所得が他産業並の450万円未満	5 0	5		
	多角的経営の取組度	マーケティングを意識し、6次産業(生産加工販売)を目指す計画を策定 マーケティングを意識し、生産のみならず販売を含めた営農計画を策定 特に意識していない	5 3 0	3		
	営農計画	新規作物及び新技術の導入がともに図られている 新規作物及び新技術の導入がどちらか一方が図られている 新規作物や新技術の導入が図られず、現状と変わらない	5 3 0	5		
	計		30	28		
	効率性	事業の投資効果				
費用対効果		B/C = 1.2以上 B/C = 1.0以上~1.2未満 B/C = 1.0未満	5 3 0	5		
事業実施コストの縮減						
コスト縮減計画		コスト縮減計画を策定、事業計画に反映 コスト縮減計画を特に検討していない	5 0	5		
事業費単価						
効率性	10a当たり事業費	国で示す上限値の80%未満 国で示す上限値の80%以上、上限値未満 国で示す上限値以上	5 3 0	3		
	計		15	13		
	熟度	地元の合意形成の状況				
熟度	同意状況	全員の同意が得られている 未同意者が存在するが、事業実施に支障がない 未同意者が存在し、円滑な事業実施に支障がある	5 3 0	5		
	事業推進体制	事業推進組織が設立済で、活発な活動を展開 事業推進組織が設立済で、定期的開催 事業推進組織が設立されていない	5 3 0	3		
	農地集団化推進団体の有無及び活動状況	現時点で集落営農組織または法人が設立されている 現時点で任意組織(生産組合など)が設立されている 現時点で組織が設立されていない	5 3 0	3		
	事業推進のための各種協議の進捗状況					
	進捗状況(水利権、道路協議 林地開発、指定区域等)	必要な協議を終了しており、基本的事項が確認されている 協議中であり、合意が得られる見込みである 協議中であり、合意時期が未定である	5 3 1	5		
熟度	環境と調和への配慮状況					
	環境保全への配慮	環境検討委員会を設置、環境保全への取組内容が十分 環境検討委員会を設置、環境保全への配慮を検討中 環境検討委員会が設置されていない	5 3 0	5		
	計		25	21		
合計			100	86		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		